

エイズは他人ごと？ ほんとうに、ほんと？

エイズは、「自分には関係ない」「過去の病気」だと思っ
ていませんか？ 実は日本でもまだまだ広がっています。
あなたはこの事実を知っていましたか？

では、なぜこんなに増えているのでしょうか？

その原因の一つに、私たちがエイズに「無関心」である
ことが挙げられます。自分には関係ないと思わずに、今、
目を向けてください。

他の国だけで
広がっている
病気でしょ？

No!



監修 岡 慎一

国立国際医療研究センター
エイズ治療・研究開発センター
センター長



私の周りには、いないと思うけど？

**HIVに感染しても、
しばらくの間は無症状です。
気付いていないだけの場合も…**

エイズとは

HIVというウイルスに感染し、免疫システムが破壊されて起こる病気の総称です。感染してから発症までは数年かかり、徐々に免疫力が低下し、やがてさまざまな感染症や悪性腫瘍などを発症します。

エイズを完全に治す薬はまだありませんが、HIVが体内で増殖するのを抑える「抗HIV薬」が開発されています。現在では、複数の薬剤を組み合わせる「多剤併用療法」によって、発症を防ぐこともできます。

エイズは早期発見・治療により、コントロール可能な病気です。

エイズの特徴

- HIVというウイルスに感染
- 感染してからエイズ発症まで自覚症状がほとんどない
- 自覚症状がなくても人への感染力はある
- エイズ発症まで数年以上

もっと知りたい!

エイズQ&A

Q もし陽性だったら、その後はどうすればいいの?

A 全国のエイズ治療拠点病院で、相談や治療が可能です

まずは、検査を受けた機関で相談を。その後は、医療機関で定期的に経過を見ながら治療が可能です。陽性でも社会で活躍している人はたくさんいます。

また、身体障害者手帳の交付を受ければ、福祉サービスを受けることもできます。信頼できる身近な人のほか、NPOやお住まいの地域の相談窓口など、相談できる場所もあります。一人で悩む必要はありません。

Q 完治しないなら、検査を受けても仕方がないのでは?

A 発見が早いほど、より高い治療効果が得られます

今のところ、体内のHIVを完全に取り除くことはできませんが、HIVの増殖を抑え、免疫力を維持することが可能になっています。また、エイズを発症しても、適切な治療を継続することで、症状をコントロールしながら、普通の生活を送ることや子供を安全に出産することも可能です。

HIVに感染したら、すぐに医療機関を受診し、きちんと治療することが大切です。パートナーも感染している可能性があるため、パートナーにも検査を勧め、感染していたら一緒に治療を受けましょう。

Q 若い人の病気でしょうか?

A 中高年の“いきなりエイズ”が問題になっています!

HIVの感染に気付かないままエイズを発症してしまう“いきなりエイズ”は、若い世代よりも中高年に多く見られます。「エイズは若い人の病気」「自分には関係ない」という他人ごと意識により、感染が広がっていると考えられます。

エイズを発症する前に感染に気付けるかどうかは、その後の治療に大きく影響します。ぜひ一度検査を受けてください。積極的な検査は、自分だけでなく周囲の大切な人たちのためにも役立ちます。

Q ピルを飲んでいれば大丈夫では?

A ピルでHIV感染を防ぐことはできません

ピルは避妊薬です。性感染症を予防することはできません。HIVやその他の性感染症を予防するためには、コンドームを正しく使うことが何よりも有効です。不特定多数や不安を感じる相手とはセックスをしないことも大切です。

Q 今私たちにできることは?

A 予防を心掛け、感染の不安があれば検査を受けましょう

HIV・エイズの感染拡大を防ぐのは、私たち一人一人の心掛けといっても過言ではありません。正確な知識をもって、コンドームを正しく使用することが予防につながります。また、一度でもセックスの経験があるのなら、検査を受けてみましょう。パートナーがいる人は、ぜひ一緒に受けてみてください。



ご存じですか? レッドリボン

レッドリボンは、HIV感染者への理解と支援を表すシンボルマークです。

「エイズに偏見を持っていない」「エイズと共に生きる人々を差別しない」というメッセージが込められています。このレッドリボンの意味を知り、身に着けることで、エイズについてみんなで考えてみませんか。